
天地

ネットワーク テーブル 454号

発行：天地シニアネットワーク：2017・8・15

TENTĪ TODAY 「戦争を知らない世代」「731部隊の真実」		1
会員の広場	<浜松・頭陀寺><成美会><サラリーマン川柳>	2
連載作品		4
随想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ 31. 熱エネルギー — 熱力学の第一法則 — エネルギー保存則	伊那 闊歩 4
随想	歴史文化論の試み(2) 石橋湛山の魅力	尾関 陽四 8
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(27) 洛中洛外4 鴨川・高瀬川・白川散策	大竹 漢洲 13
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」	16
事務局		17

TENTĪ TODAY

安倍首相をはじめ、戦争を知らない世代が、政治、外交を担当し推進する、当然と言えば当然ですが、戦争を直接、間接に知る人たちにとっては、危なくて任せられないというという心配が強くなります。戦争が始まると、関係のない多数の一般人が巻き込まれ、犠牲になります。広島、長崎の原爆被害は、典型的ですが、B29によって行われた、日本全国の主要都市への爆撃は、それ以上の被害をもたらしました。そのことを、もっと知っておくべきと思います。

昭和19年9月10日から昭和20年10月10日までの一年間をつづった作家・大仏次郎の「敗戦日記」(1995年・草思社)、には、物価の動向(記録)、戦局、世相が載っています。

こんな文がありました。

「横浜で見た避難者。フロックコートに赤い鼻緒の女下駄、泥だらけの綿頭巾、リュックサックを背負う。煙草をやると実に嬉しそうな顔をした。下着、はきものなど持ち出すのを人が忘れがちなのである。滑稽でなく悲惨な姿なのである」。現在みると滑稽かもしれませんが、その時は悲惨なのです。

NHK TV・1CHで放映された「731部隊の真実」(13日(日曜日)の午後8時)は、2015年8月に現地訪問をしたことがあり関心を引きました。

グループは、小林英夫早稲田大学名誉教授が中心でしたので、現地の中国

人責任者が直接説明、廃墟の中も工事中で車両が出入りしていましたが、自由に見学させてくれました。オープンなので教授もビックリしていましたが、中国側は、再現して観光名所にするつもりで、9月中旬にスタートという事情があったようです。

日本軍によって大勢の中国人が集められ、細菌兵器の開発のための試験体に使われ殺されたと言うのが一般的な731部隊への理解と思いますが、今回の放映で、ロシアの公文書に日本軍当事者のロシア・ハバロスク法廷での証言があり、また研究者として派遣されていた京都大、東大、など医学者の実名がのった名簿があることが明らかになりました。また補助者として働いた兵卒の生々しいインタビューは、感動ものでした。

戦後の大学病院、公的な医療機関などは、海外へ派遣された医者が帰国して収まったのが大半と聞かされましたが、731部隊に所属した医学者が、実名で登場したので、はっきり裏付けが取れそうで若干は波紋を呼びそうです。



会員の広場

田舎の老人ホームで退屈した毎日を送っています。現在、明治末期から大正時代・昭和時代初期の頃の「地方鉄道建設ブーム」の様子を郷土史研究会の機関誌に発表しています。その熱意の凄まじきことに圧倒されます。時代が変われば、現在も末端の地方では「新幹線開通ブーム」に浮かされているように思えて、なんだか同じことの招来だなと思います。小文書きましたのでおくります。2017. 8. 3 喜多川貞男

浜松・頭陀寺

先日、戦国時代に浜松市内にあったという頭陀寺（ずだじ）城一砦の跡地を見学してきました。

豊臣秀吉が農民の出で、織田信長の草履取りから出世して天下を制覇したことは誰でも知っています。或いは織田信長と出会う前に、三河国の矢作川の橋の下で寝ていたところを盗賊団の蜂須賀小六に叩き起こされて、その配下に収まったという話も実しやかに伝えられています。しかしそれ以前の秀吉14歳のころ、遠江国浜松の頭陀寺城一砦で主（あるじ）の松下長則の下で3年余りも働いていたなんてことは、あまり知られていません。

その頃の秀吉は名前も不明で、木下藤吉郎どころか猿とか猿之助と呼ばれていたようで、周囲の者からはトラブルメーカーとされて、主の松下長則は僅かな路銀を与えて追放したということです。その後、矢作川で蜂須賀小六に出会うまでのことはまったく不明です。秀吉の偉いところは、以前に世話になった蜂須賀小六や松下長則を忘れていなくて、自分が大成した後にはそれなりの処遇をして恩義に報いていることかもしれません。

その松下長則の息子の松下之綱は、戦国大名・今川氏の家臣でしたが、桶狭間の戦いで破れた今川氏没落後は徳川家康の下級武士として幾多の戦いに従軍したのち家康の下を離れて、近江国長浜城主に出世していた秀吉の家臣として拾われ秀吉の信頼を得たということです。

松下之綱の生年は元文6年（1537）で秀吉と同年生まれのみならず、没年も慶長3年（1598）で太閤となった秀吉と同じです。松下家はその後、之綱の長男・重綱が家康の傘下に入り、関ヶ原合戦後は遠江国久野城の城主となりましたが、家康の天下統一の政策によって久野城は廃城とされて常陸国の小張城主に転籍、その後上野国・鳥山城主を経て現在の福島県の二本松城主に移り、最後は同県の三春城主として明治維新まで続き明治政府によって子爵家になっています。

京都の公家や各地の大家と血縁を結び華やかな家系となった豊臣秀吉は大坂の陣によって一族完全に滅亡し、一人の孫娘だけは命拾いして徳川幕府によって「駆け込み寺」として人知れず名を残してきた鎌倉・東慶寺の尼となって生涯を終えましたが、こちらの松下家はしぶとく家系をつなぎました。しかし、秀吉と松下家との関係やその後の松下家のことなど、現在では話題にもなりませんとは寂しいことです。

この松下家のルーツは、「はじめ西条を称したが、三河国碧海都松下郷に住せしにより家号を松下にあらたな」と寛政重修諸家譜に記載されています。パナソニックの創業者・松下幸之助は和歌山県出身といえますから、同じ松下でも関係なさそうです。

『成美会（絵画・陶芸・彫刻）』（大成建設・社員、OB創作愛好の集）

2017年8月22日（火）～26日（土） 11時～18時（最終日16時）

会場：サロンドジー（Salon de G）

場所：中央区銀座6-4-6＜646ビル・9階＞（03-3571-5837）

陶芸4点出品しています（関根昌一）

大学の夏の合宿が、長野県の飯山であるので、12日から14日まで参加する予定しにしていたが、暑さ負けか体調が今一で、急遽取りやめました。夏合宿は体力をつけるため走ることが主になるのですが、最近は、宿泊する旅館、ホテルが隣接地に自前の体育館を作って提供してくれるため走る時間が少なくなり、選手は喜び。先輩は渋い顔ということになります。

9月に秋のリーグ戦が始まり、2か月近い長丁場になるので体力が大きなポイントになります。楽な方に流れるのが人の常。難しいところです。（津田）

第一生命のサラリーマン川柳、傑作300選を営業マンがおいていきました。今年で30回となるそうですが、対象が少しずつ拡がり高齢者対応の句も増えているようです。該当しそうでなく句を拾ってみました。

同窓会みんなニコニコ名前出ず
病院でサミットしている爺7
ものわすれ防ぐサプリを飲み忘れ
「言ったよね」初めて聞いたでも言えず
孫が来たポケモンいない孫帰る
備忘録書いたノートの場所忘れ
パソコンを使いこなせず紙ってる
ティピィピー ピーピーエイピー アイドンノー
戦うは昔企業で今老いと
若いころ自慢は体力今我慢
定年後暇で肥満で妻不満
脳トレのドリルを孫と競いあう

連載作品

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

31.熱エネルギー — 熱力学の第一法則 — エネルギー保存則

この世のなかの目に見える動きや変化は、すべて何らかのエネルギーのやりとりによって生ずる。物理学の目的は、この変幻自在なエネルギーを捉えて、それがこの世にどのように現れ、変化し、機能しているかを研究することなのだ。今回は、§27 にひきつづき気体の持つ熱と温度、気体の（内部）エネルギーについてさらに深く考えたい。

単原子分子理想気体(*)については、その体積を V 、圧力 P 、モル数 n 、絶対温度を T とすれば

理想気体の状態方程式： $P V = nR T$

(1)

がなりたつ(**)。ここで比例定数 $R = 8.3145 \text{ (J/mol} \cdot \text{K)}$ は気体定数である。理想気体ではない気体については後で現実に沿った簡単な修正ができるので、当面、気体といえば理想気体に限ることとする。気体の内部エネルギー

ギー U は

$$U = \frac{3}{2} nR T$$

(2)

で与えられるのであった。

熱がエネルギーであることが明確になったので、今後 Q と書けば熱エネルギーを表すものとする。エネルギーは常に力学的な仕事(力×動いた距離)に変換できるものなので、いままでもそうであったが、今後もエネルギーと仕事とを同じものとして扱う。エネルギーは変化することはあっても、勝手に消えたり無から生じたりしない。一定量の気体に外から熱 Q を加えた場合、気体は膨張して外にたいして力学的な仕事 W をする。その際、内部エネルギー U もほんの少し ΔU 増加する(または減少する)ものとする

$$Q = \Delta U + W \quad (3)$$

が成り立つ。これを**熱力学の第一法則**とよび、気体のみならず、熱に関してひろく成立するエネルギー保存則(**)なのだ。

物質を加熱した時、温度が簡単に上昇するか、し難いかの目安を与える値として物質の**比熱**を定義した：比熱とは物質1グラムの温度を1℃(1K)上昇させるのに必要な熱量のことであった。たとえば、水の比熱は4.186(J/g·K)、液体アンモニアの比熱は4.7である。水の比熱は物質中最大であるとの記述を事典などでみかけるが、**事実は液体アンモニアの比熱の方が大きい**。一方、ダイヤモンドの比熱は0.502であるから、水温を1℃あげる熱量で、同量のダイヤモンドの温度は8.34℃も上がるのだ。

以上は、液体や固体についての比熱であったが、気体についてはどうか。

気体の量は基本的にモル単位で測るので、比熱も**モル比熱**として測るのが便利である。気体の**モル比熱**とは**気体1モルの温度を1℃(1K)上昇させるのに必要な熱量のこと**と定義する。気体は加熱することにより、体積や圧力が大きく変化する。したがって比熱は**体積を一定にして測る「定積モル比熱 C_V 」**と圧力を一定にして測る**「定圧モル比熱 C_p 」**とを区別して考えなければならない。

気体の状態方程式(1)は、3つの変数 P, V, T の組み合わせによって作られているので、これらの変数がそれぞれ勝手に動くわけにはいかない。そ

れぞれが微小量 ΔP , ΔV , ΔT だけ動いた(増減した)ときにも状態方程式 (1) は成り立っていないから、

$$(P + \Delta P)(V + \Delta V) = nR(T + \Delta T)$$

この括弧をはずして計算すれば

$$PV + P \Delta V + V \Delta P + \Delta P \Delta V = nR T + nR \Delta T$$

ここで (1) を使い、さらに、 $\Delta P \Delta V$ は 微小量 \times 微小量 なので無視できるほど小さな量と考えられるので、気体の体積、圧力、温度は次のような束縛:

$$P \Delta V + V \Delta P = nR \Delta T$$

(4)

を受けながら動けるといことがわかる。今後は上記 (1), (2), (3), (4) によって気体に関する諸現象を調べよう。

(a) 気体の体積を一定に保つ変化 — 定積変化

体積を変えないのであるから、 $\Delta V = 0$ 。この時気体は外に向かって仕事はせず $W = 0$ 。入ってきた熱量はすべて内部エネルギーとして蓄えられる。つまり

$$Q = \Delta U = \frac{3}{2} nR \Delta T$$

ここに得られた式は、 n モルの気体の体積を変えずに、温度を ΔT だけ上げるのに必要な熱量を意味するから、この場合定積モル比熱 c_V によって

$$Q = n c_V \Delta T$$

これらをくらべて理想気体の定積モル比熱 c_V は

$$c_V = \frac{3}{2} R$$

で与えられることがわかる。

(b) 気体の圧力を一定に保つ変化 — 定圧変化

圧力を変えないのであるから、 $\Delta P = 0$ 。気体の体積は (fig.の赤いピストンを横に動かし) ΔV だけふえる (fig.1→fig.2)。それ故、気体は外に向かって

$$W = P \Delta V = nR \Delta T$$

だけの仕事をする。投入した熱量の一部は内部エネルギー

$$\Delta U = \frac{3}{2} nR \Delta T$$

となって留保される。これから、温度を ΔT あげるために投入された熱量は

$$Q = \Delta U + W = \frac{3}{2} nR \Delta T + nR \Delta T = \frac{5}{2} nR \Delta T$$

となる。これを定圧モル比熱の定義式：

$$Q = nC_p \Delta T$$

と比べてみれば

$$C_p = \frac{5}{2} R$$

となっていることがわかる。以上から次のような等式：

$$C_p - C_v = R$$

が成り立つことがわかる。この式は理想気体でなくとも一般に成り立つ公式でマイヤーの公式と呼ばれている。

水素ガスは2原子分子気体であるから、 $C_p = (7/2) R = 3.5 \times 8.3145 = 29.1$ で、これが1モルあたりの定圧比熱である。水素1モルは水素ガス2グラムに相当し、したがって、水素ガス1グラムあたりの比熱は14.05となる。実測値は理科年表などによれば14.19。この値は水とくらべても異常に大きい、つまり、水素ガスは良い断熱材ではあるが、引火しやすいため断熱材としては使用されない。同じく酸素、窒素にたいする実測値はそれぞれ0.922, 1.034であるが、理論値はそれぞれ $29.1/32 = 0.909$, $29.1/28$

= 1.039 となって実測値とほぼ一致している。なお、液体や固体のばあい、比熱は定圧比熱を測るのである。

(c) 気体の温度を一定に保ちながらの変化 — 等温変化

温度を変えないのであるから $\Delta T = 0$ 。そうすると内部エネルギーの変化はなく $\Delta U = 0$ (内部留保はゼロ)、入ってきた熱はすべて仕事に変えられる、つまり $Q = W$ 、逆に外から仕事をされた時には熱(儲け)は、外に吐き出すのだ。

(d) 外からの熱の出入りを遮断する変化 — 断熱変化

外からの熱の出入りを遮断(断熱材など巻きつけて)するのであるから、

$$Q = \Delta U + W = \frac{3}{2} nR \Delta T + P \Delta V = 0$$

これから、 $nR \Delta T = -\frac{2}{3} P \Delta V$ と書けるので、これを(4)の右辺に代入して整理すれば

$$\frac{5}{3} P \Delta V + V \Delta P = 0$$

となって、これを積分すれば(****)、気体の断熱変化を表す方程式：

$$P V^{5/3} = \text{定数} \quad (5)$$

を得る。

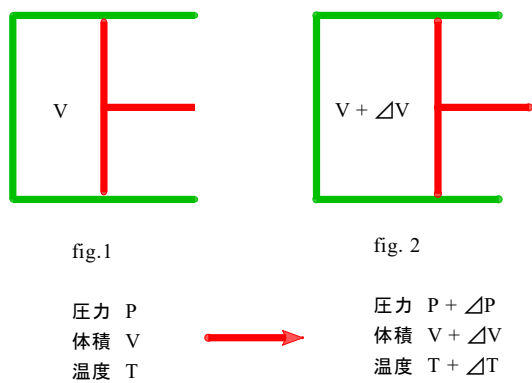
熱が関係する自然現象はすべて上記 (a)、(b)、(c)、(d) の変化の組み合わせによってひきおこされるのだ。

(*)ヘリウム、ネオン、アルゴンのような希ガスは単原子分子ではあるが、理想気体は、分子の大きさも分子間に働く力もなく、状態方程式がそのまま成り立つ仮想的な気体のことである。希ガスは理想気体にかなり近いとされている。

(**) 物質量を測る単位をモル(ひと盛り)という。1モルの物質中に含まれる構成粒子の数は決まっていて、 $1(\text{mol}) \times N_A = 6.0221 \times 10^{23}$ 個である。ここで、 $N_A = 6.0221 \times 10^{23}$ (1/mol)をアヴォガドロ定数という(§26)。つまり、アヴォガドロ定数×モル数 = 構成粒子数となる。水素ガスならば、1モル、2グラム中に含まれる水素分子の数が 6.0221×10^{23} 個である。気温 0°C (273 K)、気圧 1013ヘクトパスカル (= 1気圧 = 760 mm Hg)のもとで1モルの気体の体積は、不思議なことに気体の種類によらず 22.4 リットルとなる(アヴォガドロの法則)。

(**) あるものがほんの少し有限量ふえる、あるいは減るというときに、物理や数学では Δ という記号を使う。内部エネルギー U の増分を ΔU と書く。 Q をある企業の営業利益（儲け）であるとすると、 W は社員の給料や設備投資、投資家への利益配分など、 ΔU は内部留保の資金と考えればよい。熱力学とは、熱による変化や動的平衡について考える物理学のひとつの分野。

(****) この式を積分形に書き直すと $\frac{5}{3} \int \frac{dV}{V} + \int \frac{dP}{P} = \text{定数}$ となり、この積分を実行すれば結果は (5) になる。このタイプの積分は、自然現象を記述する際に、最もよく(いやというほど)出てくる積分であるから、ぜひ慣れていただきたい。積分の初項の係数 $5/3$ は一般に γ と書かれ、(5) を $P V^\gamma = \text{定数}$ と書き、これをポアソンの法則と呼んでいる。ヘリウム、アルゴン、クリプトンなどの希ガスについての γ の実測値は 1.67, これは理論値 $\gamma = 5/3$ そのものである。酸素や水素ガスなど 2 原子分子については 1.38, 理論値 $\gamma = 7/5$ とほぼ同じ値が得られている。なお一般に $\gamma = C_p / C_v$ と書けることがわかっている。



歴史文化論の試み (2) 尾関 陽四

石橋湛山の魅力

(1) 人気のいわれ

石橋湛山 (1884 年 - 1973 年) の名を知っている人はどのくらいいるのだろうか？

明治・大正・昭和の三代にわたって、初めはジャーナリストとして、後には政治家として活躍し、総理大臣にまでなった人だが、派手に名前を売るような事績はなかったのではないかと、そう思っていたのだが、この湛山が識者の間でなかなか評判がいいらしい。

単なる保守政治家ではなく、気骨のある一言居士として、湛山の評価が高いのだ。その一例は、毒舌家として知られる佐高信の『湛山除名 小日本主義の運命』（2004年、岩波現代文庫）に解説を寄せているのが、細川護熙内閣で首相特別補佐を勤めた田中秀征であることにも表われている。右・左を問わずファンが多い。『石橋湛山評論集』（岩波文庫）が1996年に20刷、『湛山回想』（岩波文庫）は1998年に9刷、というところからも、湛山の根強い人気うかがえる。

さて、ひょんなことから、湛山を読んでみることになった。きっかけは、小島直記『異端の言説 石橋湛山 上・下』（昭和53年、新潮社）を古本屋の安売りワゴンで目にしたことだった。小島直記は馴染みのない名前、いつもは馴染みのない人の本には手を出さないのだが、「湛山」のタイトルに惹かれて購入した。その後、小島直記が評伝作家で、経済人の評伝を多く手がけていることを知った。

この評伝がなかなか面白い。よく「〇〇とその時代」というタイトルの評伝があるが、これはまさに「石橋湛山とその時代」を描写したもので、前提となる知識の少ないものにも、湛山と時代との係わりが理解できるようになっている。湛山没後5年で出た評伝として出色のものだろう。湛山の特質をすべて「異端の言説」として括っているのがわかりやすい。どのように「異端」だったのか？ 湛山に則してみよう。

（2）ジャーナリスト・湛山

石橋湛山は、その名前から推測できるように、仏門に生まれ、18歳で得度した。しかし、早稲田大学を卒業した後、東京毎日新聞社に入った。ジャーナリストとして身を立てる決心をしたのだ。

その後、兵役を経て、東洋経済新報社に入社し、「東洋時論」の編集に携わり、後に「東洋経済新報」の記者になった（1912年＝明治45年＝、28歳）。ここから、本格的ジャーナリストとしての湛山のキャリアが始まることとなる。

わが国の近代には、時の政府や権力と一定の距離をとりながら、持論を展開するジャーナリズムの伝統があった。その、最も大きな、時代に影響力を発揮した例として、福沢諭吉と「時事新報」がある。諭吉は、他国のいいところはどしどし取り入れようという合理主義を「時事新報」誌上で展開して、明治政府の政治家や官僚にも支持者を多く持った。しかし、政権に入ることはなく、在野を貫いた。その拠り所が「時事新報」だった。

後に、諭吉は「脱亜入欧」を唱えてミソをつけたが、それはまた別のこと。

さて、湛山の拠った「東洋経済新報」は、大正時代から昭和時代にかけて、時の政府や権力と一定の距離をとるスタンスを保ちながら、持論を展開した。その持論とは、小島直記が「異端の言説」と名づけたように、現在の我々から見ても、驚くようなものだった。

二つ、例を挙げよう。

その1。金解禁論争に対するスタンス

1917年に停止された「金本位制」を、いつ解禁するか、その際の円一金交換レートをどう設定するかについて、経済界で大きな論争があった。第一次世界大戦による好景気・円高が現出したことを受けて、湛山は直ちに金解禁を実施すべしとの論陣を張った。しかし、時の政府は金解禁に踏み切らなかった。

昭和初頭の金融恐慌により、一旦金解禁論争は頓挫したが、その後、1930年に政府は金解禁に踏み切る。国際圧力に押されたためである。その際、政府の採用した円一金交換レートは旧平価によるものであったが、「東洋経済新報」は実勢レートを主張した。実勢レートが円高にふれていたためである。

果たして、金解禁が実施されるやいなや、外国のファンド勢力が、実勢レートで円を買い、公定の円一金交換レートで円を売り抜けるという「差益取り」の動きに出たため、わが国の収支は短期間で多大な損失をこうむることになった。

現在の為替政策にも教訓となる事例で、湛山らの主張する「直ちに金解禁を実施せよ」と「円一金交換レートは実勢レートとすべし」を時の政府が容れる器量があれば、という感懐を持たざるを得ない。

その2。植民地領有に対するスタンス

湛山は1915年の「東洋経済新報」社説で、「青島は断じて領有すべからず」と断じた。それまでドイツが領有していた山東半島の權益を奪った行為が、単純に考えて、帝国主義諸国間の權益の移動に過ぎず、中国国民の反感を高めるのみならず、アメリカ・イギリスからも領土的野心を指弾されると湛山は指摘する。

湛山はさらに1922年の「東洋経済新報」社説で、「大日本主義の幻想」を論じた。ここでは、持論をさらに進めて、わが国は一切の植民地（朝鮮・台湾・樺太・支那・シベリア）を放棄すべしと論じている。

その理由は、外交政策上得策でないだけでなく、経済上、膨大な植民地を維持するコストはわが国の利益に見合わない、という大胆なものだった。「自由主義者」湛山の面目躍如である。国中が海外への膨張に浮かれている最中に、

冷静なコスト・効果比の論調を展開する合理的思考は時代を飛びぬけていた。

（３）政治家・湛山

第二次世界大戦後、石橋湛山は政界に進出する。戦前から計画していた転身のようなのだが、奥深い真意はわからない。いきなり、吉田茂内閣の大蔵大臣として入閣して、得意の財政政策に邁進する。衆議院議員にもなり、さらに飛躍しようとするときに、占領軍による「公職追放」に遭う。戦前の自由主義ジャーナリストとしての実績から見て、誰もがいぶかる決定だったようである。ライバルを叩く吉田茂の策動があったとする論調もあったようだが、真相はわからない。

しかし、この「公職追放」は思わぬプレゼントをわれわれにもたらした。湛山は、この閑暇の機会を利用して、「東洋経済新報」に「湛山回想」を連載したのである。

さて、「公職追放」が解け、湛山は鳩山一郎率いる自由党の領袖になり、さらに保守合同後の自由民主党の第二代総裁になり、ついには、1956年内閣総理大臣にまで登り詰めた。しかし、病を得て、翌1957年に総理大臣を辞任する。わずか2ヶ月の短命内閣で、当然、内閣総理大臣としての業績は湛山にはない。

しかし、政治家・湛山はこれで終わらなかった。

湛山を継いだ岸信介内閣がアメリカとの安全保障条約の改定にかかりきりになり、その後の池田勇人内閣が所得倍増計画にうつつをぬかして、いずれも外交をおろそかにした。特に、ソ連・中国との国交回復の外交をする政治家が不在であった中、湛山は、病が癒えたあと、積極的に対ソ連・対中国外交に心血を注ぐようになる。

この対ソ連・対中国外交が政治家・湛山の真骨頂であった。それを可能にした背景を考えると、共産主義国（当時はそう呼ばれていた）に対する曇りない・偏見のない見方が大きな役割をはたした。そのルーツは、ロシア革命後のソ連政府を承認せよという「東洋経済新報」社説（1919年）や、中国国民の立場から領有の是非を考えよという「東洋経済新報」社説（1915年）にあることが確認できる。

（４）家庭人・湛山

湛山は家庭人としても、時代の先を行っていた。戦前から、外で食事をするときには、いつも夫妻同伴だった。それは、政治家に転身した戦後になっても変わらず、政治家の女性観を覆す模範を気取りなく示して見せた。

その前兆は、東洋経済新報社に在籍した時すでにあった。

1912年の「東洋時論」の社論で、職業婦人の増加した現在に「良妻賢母主義」

を押し付ける不合理を説き、女性の自立を支える施策の必要性を力説している。

また、1925年の「東洋経済新報」の社説では、女性に参政権を与えることは当然だと述べた上で、それ以外にも、小中学校の教育を実質上担っている女子を形式上でも参加させる法制を作ることや購買組合などへの女性参加を促進する法制を作ることなど、女性の社会参加を促す法整備の必要性を説いている。

湛山はこのような考えを自らの家庭でも気負わず実践してきたのである。時代の数十年も先を行く女性観であり家庭観である。

(5) 湛山の肖像

岩波文庫『湛山回想』の巻頭に、石橋湛山の肖像写真が1枚掲載されている。1955年頃の撮影とあるから、鳩山一郎内閣の通産大臣であったころ、自宅で写したものである。丸顔で、どこか子供のような稚気をたたえた面影とともに、国士のような風貌も読み取れる写真である。

実は、私は生前の湛山に会ったことがある。

病気で首相を退いた後、静養のため、湛山は神奈川県大磯に滞在していた。1957年か1958年の夏のことである。ちょうど、私は親に連れられて、大磯の「海の家」に泊りがけで来ていた。ある朝、海岸に出ると、湛山が家族と散策しているところに遭遇した。ジャーナリストのはしくれである父が私にカメラを宿から持ってくるように命じた。発売になったばかりのヤシカの二眼レフで、ポートレート撮るにはピッタリのカメラである。

写真を撮らせていただきたいと湛山に頼むと快諾してくれて、私は必死になって写真を撮った。後日出来上がった写真を湛山に送ったところ、書生の方から懇切な礼状をもらった記憶がある。

今でも、その時の湛山のポートレートはどこかにあるはずだ。岩波文庫『湛山回想』の巻頭写真を見ながら、はるか50年前の朝の光景が一瞬よみがえった。

だが、硬骨漢・石橋湛山を知ったのは、初めに述べたように、ごく最近のことだ。

湛山は自らのモットーを「個人主義・自由主義・民主主義」と標榜していたが、私はこれに加えて、「女権尊重主義・柔軟な思考」を湛山の思想の真髄として挙げたいと思う。

湛山の思想と人柄を知るには、次の2冊がよい導き手となる。

『石橋湛山評論集』（1984年、岩波文庫）

『湛山回想』（1985年、岩波文庫）

湛山の文章は、今ではやや時代がかっているものの、明解で、人をぐいぐい引き付ける魅力をたたえている

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（27）

大竹 漢州

洛中洛外 4 鴨川・高瀬川・白川散策

高瀬川

頁都は“水”の都です。東から北、そして西を山々に囲まれて、降った雨水は地下に吸い込まれて、北から南に傾いた傾斜のある盆地を地下水として流れています。北と南の盆地の高低差は、東寺にある五重塔の高さである55mあると聞いています。京都に遷都してから1200年余になりますが、培われてきた伝統的な衣食住の文化は“水”に拠っていると言っても過言ではありません。

西から大きな河川が京都盆地に流れて込んでいます。河川は人々に豊かな暮らしを齎すとともに、時には豹変して人々に襲いかかり災を引き起こします。人々は河川を鎮めるために治水工事を行い、今日ある京都の河川の姿を形造っています。一昨年には保津川が想定外の集中豪雨で、渡月橋付近が氾濫寸前まで増水し、渡月橋も流される危機に見舞われました。歴史的に保津川は幾たびも氾濫の恐れがあり、平安初期に京都盆地以南の嵯峨・松尾に入植した渡来人秦氏により、大堰川の治水工事が行われて、堰堤を築かれて以降、良田が開発されると共に、河川の増水も治められました。17世紀になると嵯峨嵐山の豪商であった角倉了良似が大堰川下流の桂川を開削して、丹波から淀・大阪まで船便が通じて、山奥からの物資と人の往来が盛んに行われるようになりました。

京都盆地には北からもう一本河川が流れ込んでいます。下鴨神社のある糺ノ森で賀茂川と高野川と合流している河川です。前置きが長くなりましたが、鴨川の分流である「高瀬川」と「白川」が主人公です。

高瀬川も17世紀に角倉了似・素庵親子によって、京都の中心部と伏見を結ぶために、物流用に開削された運河です。開削時から大正年間（1920年）まで300年も実際に活躍していました。伏見まで鴨川に沿うように通じた船便は、河川名から「高瀬舟」と呼ばれていました。高瀬川運河は水深が

浅いので、平舟が用いられていました。

余談です。学生時代に一度は読んだ小説に森鷗外作「高瀬舟」があります。この運河は物流専用で、人は乗れませんが罪人は例外で伏見から大阪まで護送されます。高瀬舟に乗せられた罪人の心境を描いたさ短編です。

“京都の罪人を遠島に送るために高瀬川を下る舟に、弟を殺した喜助と言う男が乗せられた。護送役の羽田庄兵衛は、喜助がいかにも晴れやかな顔をしているのを不審に思い、尋ねる”

ことから話が始まります。高瀬舟に乗る罪人の過半は、いわゆる、心得違いのために、思わぬ科を犯した人であった。ありふれた例を挙げれば、当時と言う相対死。そこで高瀬舟の護送は、町奉行所の同心仲間の間では、職務として嫌われていました。羽田庄兵衛は喜助の表情に意外なものを感じました。お後は「高瀬舟」をお読みください。

今日も鴨川から分流して、高瀬川は南に流れていますが、途中で鴨川で分断されています。北側が高瀬川で鴨川以南を新高瀬川と呼んでいます。現在、北側の高瀬川には史跡として「一之舟人」の在った場所が保存されています。舟人とは物資の積下ろしと方向転換をする所です。古地図に依れば二条から四条の間に、九ヶ所の舟人があり物資の荷揚げ積み込みで殷賑を極めていました。

余談です。木屋町通りは京都繁華街の一つです。北は二条通りから南七条通り 2.8 kmの道路です。先斗町の西側位置して、特に高瀬川沿いの二条と五条の間を「木屋町」と通称されています。

木屋町の幕末朝は、長州・薩摩の尊王攘夷派の武士や、脱藩浪士が暗躍して、会津藩京都守護預かりの新撰組争いや暗殺者が横行する無法地域に化していました。馴染みのある土佐藩脱藩浪士・坂本龍馬、中岡慎太郎も近くの近江屋で慶応3年(1867年)に暗殺されています。高瀬川沿いの木屋町通りでは、元治元年(1864年)に松代藩の佐久間象山が馬上で斬り殺されています。そして長州藩の大村益次郎が明治2年(1869年)に木屋町の旅館で会食中に、元長州藩士の手で重傷を負い、後に敗血症で死んでいます。

独白。高瀬川に沿って流れる木屋町通りは、人の頭を狂わせる得体の知れない怨霊が潜んでいる様に感じられて仕方ありません。京都の歴史を振り返ると、鴨川を含んだこの地域は、疫病で死んだ屍体が放置されたり、罪人が処刑されています。然も高瀬舟で罪人が遠島される出発地でもありました。繁華街の華やかな裏には、影の世界が潜んでいるに違いありません。

余談の余談です。先の花見に靖國神社に出掛けました。神社の大鳥居を抜けた先に大村益次郎の銅像が見下ろすように建てられています。何故?大村益次郎の銅像が建てられてたか?こ存じですね。大村益次郎が靖國神社の創建者です。靖國神社は戊辰戦争で亡くなった官軍の志士を祀るために建てられました。賊軍として虐げられた会津も桑名も水戸の志士は祀られていません。勿論新政府に背いた西郷隆盛始め。私学校出身で城山で自刃した桐野利明・村田新八・別府晋助・辺見十郎太も祀られていません。靖國神社は、

長州人の為の神社として性格が強い。さらに吉田松陰の教えを実行した太平洋戦争の長州出身の戦犯者まで祀ってから事は複雑化してしまいました。安倍首相が靖國神社参拝に拘っているのは、首相自身が山口即ち長州出身に他なりません。幕末の歴史は今日まで尾を引いています。歴史は時代で決して区切れません。

白川(白河)

白川は、川名が示す通り美しい街です。かつては高瀬川と異なり東山から流れ出る自然豊かな川でした。生活や灌漑用水にも利用された川でした。古き良き時代の京の都には、洛中を行商する大原女や白川女が活躍していましたが、白川女の売り歩いた花卉や蔬菜は、白河という土地で白川の水で栽培されました。

余談です。白河とは白川が流れる地域を言います。京都の北部鴨川の流れる東と東山との間の地域を一般的に指しています。今日、平安神宮を始め京都の文化施設のある地或は岡崎と呼ばれていますが、かつては白河でした。鎌倉陣代に後鳥羽上皇が白河に造営した御所を「岡崎御前」を称され、以後はこの地或は「白河」でなく「岡崎」と呼ばれる様になりました。岡崎の地域名が定着したのは室町時代以降のことです。

余談の余談です。由緒ある「白川の地域名が消滅しなかったのは庶民の強い意志がありました。「岡崎」は時の権力者が、自らの御所に命名した名であり、庶民の生活には一切関係がありませんでした。しかし御所が出来たことで、市街地化が進み、庶民の生活圏は追いやられ、白川の北の地域に白河が残りました。庶民が伝統ある歴史的な名を残す事になりました。東京都の江戸時代から歴史を持った地名を変更した愚策は嘆かわしい行為でした。旅人が現住所に住み始めたのは、中学2年生の時ですから、60年も前のこととなります。地名は「原町」でした。隣町は「御殿町」と呼ばれていました。地名の由来は、小石川植物園の旧地に紀州藩出で八代将軍家徳川綱吉公の御殿があった所です。本来は由緒正しい地名でした。無味乾燥な白山四丁目に変えられて全く心外です。

由緒ある「白川」に戻ります。白川の水源は、今日の滋賀県と京都府との間に連なる東山連山の比叡山と如意ヶ岳の中間に位置する「白川山」になります。この地から流れ出た白川の古来の川筋は西に向かい、三条通北側一丁目付近を東に流れ、鴨川に合流していました。今日と異なった川筋で流れていました。今日ある川筋が大きく変わるのは明治維新以降でした。

余談です。明治維新を迎えた京都人にとって想像だにできなかった現実が突きつけられました。1064年も続いた都が、東京に遷都することなど夢にも思いませんでした。京都は従来から消費都市であり、皇族・公家たち・京都在住の武士たちの消費行動で生産が支えられてきました。突然に主を失った京都は火の消えたように、たちまちのうちに衰退していきました。ここに新しい産業を興す気運が高まりました。琵琶湖の無限な水資源に注目して、インクラインと水路を建築して、水運と発電で京都は再生していきます。

白川の川筋が大きく変わるのは、インクラインと水路口となった南禅寺船溜りと深い関係にありました。(インクラインの章をご参考)東山から流れた白川の向きを、吉田山北東の鹿ヶ谷付近で南西に変えて、南禅寺西の船溜りでインクライン(琵琶湖)から運び込まれた疎水と合わさって岡崎疎水として流れます。春の岡崎疎水は、両岸が満開の桜並木に覆われて、花吹雪の中を行き交う観光船の風景は美しい風景画です。

橋下を通り過ぎる観光船が残した花筏の航跡が、いつまでも水面に広がっています。

新しい白川は、岡崎疎水として旧六勝寺付近を西に流れて、平安神宮の大鳥居付近で岡崎疎水と分かれ後は知恩院西にある町家の軒を縫うように流れて、四条北で鴨川に合流しています。旅人夫婦は、平安神宮付近で分流した白川の川畔にある食事処・三味洪庵で昼食を摂ったことがあります。ある夏の昼時でした。白川に面した窓は開け放たれて、涼しい川風が吹き込んできます。川面にはお歯黒トンボが飛び交い、澄んだ川水には緑の藻が川の流れに導かれる様に漂っていました。白川ぽ本当に美しい川です。

京都人に愛されてきた「白川」の流れはは、祇園の巽橋付近で再び美しく輝きます。歌人吉井勇は、古希を迎えた年1955年に、白川の流れを和歌に詠んで遺しています。

かにかくに 祇園はこいし寝(ぬ)るときも
枕のしたを水のながるる

この和歌は石碑に刻まれて、巽神社の近くに建てられています。毎年「かにかくに祭」が行われています。祇園甲部の芸舞妓の手で、石碑に白菊が手向けられます。

巽神社付近の白川が最も美しいのは、春の桜の季節です。巽橋から下流を望むと、桜並木の満開の桜が水面を覆うばかりに垂れ下がっています。美しい京都の春の景色です。

余談です。銀閣寺には白沙で形造られた不思議な造形物「向月台」「銀沙灘」があった記憶をお待ちでしょうか?

この白沙は白川の産で、然も川名の起源にもなっています。東山山系から京都盆地の扇畳敷に流れ込んだ白川は、花崗岩を含む礫質砂層を通り抜ける間に、白沙(石英質)を流れとともに運び出して、川底に堆積します。白沙は粒が大きく、しかも雲母を含んでいるので、満月の光でもキラキラと美しく輝く様です。

「四神相応の地」に選ばれた山背国・山城国は、都として風水に適った地相の土地でした。東・北・西が高い峰々で屏風のように囲まれて、その間を幾筋もの河川が北から南に流れています。面白い事に、京都盆地を流れる河川は、合流して一本の大河・淀川となり、大阪湾に注ぎ込んでいます。京都盆地を流れる川に人の一生を感じます。旅人は京都の山々も好きですが、数々の歴史を秘めた河川も好きです。

文化講座・講演会

奈良興福寺文化講座 2017年9月21日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「運慶と鎌倉彫刻の新様式一形への信頼と力一」

興福寺国宝館長 執事 金子啓明

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第86回 新三木会講演会のご案内

1、日時・会場 2017年9月21日(木)13:00-15:00 如水会館

2、演題・『望ましい社会制度・経済政策を求めて』 鈴木興太郎氏

一橋大学・早稲田大学名誉教授

3. 申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com

TEL: 047-464-4063

フルネーム：一般・天地シニアネットワーク

会費: 2000円 婦人 1000円 学生無料

茶話会: 15:15-14:20 千円 (自由参加)

4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

● 10月19日(木) 第87回 小宮山 宏氏

三菱総研理事長、元東京大学総長

『プラチナ社会を目指して』

● 11月16日(木) 第88回 高橋和夫氏 放送大学教授

『中東と米国トランプ政権』

● 12月21日(木) 第89回 牧 久氏 元日本経済新聞社副社長

『さらば国鉄 国鉄民営化の舞台裏』

事務局

<事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号

(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR 山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR 御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと(都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると)、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。(1階は焼肉屋「もとやま」。)そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送りします。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・454号

● 発行：2017年8月15日

● 天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp